

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0292400041		
法人名	平山建設株式会社		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	青森県北津軽郡中泊町大字今泉字神山144-1		
自己評価作成日	平成22年12月31日	評価結果市町村受理日	平成23年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年3月9日

# (ユニット名

)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年8月10日より運営している新しいグループホームであり、周りが広々として景色が良く、四季の移ろいが感じられる立地となっております。また、隣接する系列施設の温泉に入浴ができ、行事などを一緒に行うなど交流を図っています。利用者様は、明るく家庭的な雰囲気の中で生活しており、ご家族の方も気軽に面会に来て頂いて、利用者様の家族や地域との結びつきを大切に考え支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅が少なく、商店も近くにないが、地域からの訪問販売、保育園、子供会、体験学習の生徒、婦人会(お菓子作り、歌、踊りなど)を受け入れ、散歩時の挨拶など地域資源に関わり、医療関係者など地域外の住民の参加も受け入れ、地域と交流を図る働きかけを行っている。利用者との会話やレクリエーション等の行動を通して、思いや希望、意向を把握をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況  次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>運営理念は、玄関にわかりやすく掲示している。その人らしさを尊重し、これまでの暮らしに敬意を払い、これからの暮らしに希望を持てるように支えるサービスをスタッフ皆で共有している。</p> <p>理念は、地域における利用者の暮らしを尊重したものであり、分かりやすく、大きな文字で玄関に掲示している。また、カンファレンスで地域密着型サービスの役割を話し合い、職員間で共有を図り、ケアを実践している。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の出張販売店より食品や日用品を定期購入し、交流を深めている。近隣保育園の運動会に参加したり、婦人会の訪問などで接点を持つように努めている。</p> <p>婦人会の訪問を受入れたり、保育所の運動会へ参加したり、夏祭りへ招待する等、地域の方と積極的に交流している。入居者が散歩の際は近所の方と挨拶を交わし、野菜を頂くこともある。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>広報にてボランティアを随時募集している。夏祭りには地域のボランティアとして参加し、地域に還元する取り組みを行っている。</p>
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し施設内の行事報告を行い地域や家族の方と共に話し合い、サービス向上につなげている。</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、運営推進委員の出席率も高く、外部評価結果を報告している。身体拘束等、現場で悩んでいることなどは議案として提議して、意見を出してもらい、サービスの向上に努めている。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者に広報を送付している。また、運営推進会議では困難事例の対応等を協議し、意見交換している。</p> <p>運営推進会議の委員に町職員や地域包括支援センターの職員に参加していただいている。パンフレットや毎月発行の広報誌も持参し、日頃から連携に努めている。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>ホームの方針としては、身体拘束のないケアを心掛けているが、自宅にいた頃から徘徊し、今も常に外に出たがり、目が離せない利用者があり、目の前が道路で、命を危険から守る為にやむを得ず同意を得て、玄関施錠を行っている。その為に利用者のストレスにならないよう天気の良い日は外出を心掛け、気分転換を図れるよう配慮している。</p>	<p>ホームの前を道路が通っており、危険なため安全確保のために、玄関に施錠することもある。できるだけ利用者本位の生活を維持するために、放尿傾向の利用者に対する対処の方法等、他施設との会議等で解決に向けての意見を出してもらうなど、日々のケアの質の向上に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム内の勉強会や外部研修に参加し、虐待防止に努めている。また、当ホームの方針に基づいて言葉掛けには注意し、周知徹底している。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修やホーム内研修にて学び、理解している。また、当施設では日常生活自立支援事業を利用している方が2名いる。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際は、利用者の家族の不安や疑問に丁寧に対応している。また、長期入院した場合などには、退院後の施設サービスの紹介を行っている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族が苦情や意見が出しやすいよう玄関先に苦情箱を設置している。また、契約時は事業所以外の苦情受付先などをわかりやすく説明し、掲示している。</p>	<p>職員は受け持ち制にしており、全職員は利用者の立場に立ち、問題を吸い上げている。毎日ミーティングで利用者や家族から出されたその日の問題を話し合っている。運営推進会議の委員に家族代表が入っており、意見箱を設置し、入居時に苦情受付先の説明をしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月の勉強会、定例会を行い、職員と意見交換しながら質の向上につなげている。	代表者は毎日ホームに来て、管理者や職員の意見を日々のミーティングや勉強会等で取り入れて決定している。職員も意見を言いやすい状態にある。利用者に与える影響を最少にするために、異動する際は1ヶ月を目処に引き継ぎをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慰安旅行を通して気分転換を図り、個々が向上心を持って働きやすい環境作りをしている。また、職員の家族も大切に考え配慮している。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講し毎月定例会や勉強会にて報告を行うことで職員のスキルアップを図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議や地域のグループホーム交流会、ケア会議に参加し、意見交換を行うことで情報の収集とサービスの質の向上を心掛けている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、基本情報や生活状態を詳しく聞き、不安なことや要望にも対応できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より今までの経緯について話を聞き、本人、家族のニーズを掴み、不安を取り除けるように努力している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているのか見極め、利用者、家族と充分に話し合い、ニーズに沿ったサービス提供を心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の心情を理解し、思いやりを持って接している。一緒にお茶を飲んで会話したり日常の家事を共に行う等、生活を共にするケアや寄り添うケアを心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族へ近況報告を書面にて行っており、情報の共有に努めている。また、行事への参加を呼びかけ、利用者と一緒に過ごし、楽しめる場面を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など、ゆっくり出来る環境作りを心掛けている。また、馴染みの場所への外出支援を行っている。	入居時、利用者の環境やこれまでの暮らしを理解すると共に思いを受け止め、否定せず話し掛け、馴染みの場所等も把握している。職員は必要があれば手紙等の宛名を書いたり、電話をかける支援をしている。これまでの生活が継続できるよう馴染みの場所に行くことを希望した場合は外出支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさや個性を活かし、役割や共同作業などでコミュニケーションなどを図っている。また、意識して関わりを持てるように努力している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や、サービス利用終了になった際にも、家族の相談に乗り、関係を断ち切らないよう入院先を訪問してみるなど信頼関係を保つようにしている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを守ることを基本理念に掲げており、本人の思いや意向を把握し、理解するよう努めている。	基本理念である「あなたらしさをお守りします」を職員は良く理解しており、利用者の日々の表情やしぐさ等から、本人の意向を汲み取ろうとしている。意向が把握出来ない場合は全職員で利用者の視点に立ち、毎日のミーティングで話し合い把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら家族や本人から情報収集を行っている。利用者一人ひとりが自分らしく暮らしていけるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣、生活リズムを把握し、その人に沿った対応を心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の希望が反映された介護計画になるように努めている。また、月1回モニタリングを行い、3ヶ月に1回見直しを行っている。利用者の変化に気づき、すぐ対応するよう努めている。	ケア場面で利用者とコミュニケーションをとり、介護計画作成時は意見を聞くようにしている。基本的には3ヶ月に1回の見直しを行う際は職員、家族、知人関係者の意見や希望、気づきを入れ、再アセスメントを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしや身体状況、気付いたことを生活記録や日誌、申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の婦人会のボランティア訪問を受け入れている。緊急連絡網に地域の協力委員の名前を記載しており、火災の時は協力を要請する体制が出来ている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、本人や家族の希望の医療機関を受診している。受診結果は口頭やメッセージで家族に伝えている。また、家族と共に受診をする等、良好な関係が築けている。</p>	<p>入居時にこれまでの受診状況を把握し、協力病院受診だけでなく希望する医療機関を受診できるように支援している。新たに受診する際には利用者及び家族の希望を聞いている。ホームで支援した場合、結果は電話で家族に報告し、共有している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師に密に連絡をし、健康管理、医療管理が出来ている。また、24時間連絡がとれる体制である。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院と連絡を取り合い、情報交換や相談を行っている。入院した時は、定期的に訪問し、担当の看護師と連絡をとり、回復状態を確認している。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>当施設では、看取りの体制はとっているが、実際にここでの看取りはまだ行われていない。医師と職員が連携をとり、利用者が安心できる支援を心掛けている。</p>	<p>健康管理や急変時の対応については明確になっている。「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」はあるが、まだ該当者はなく、同意書で同意を得ている。AEDを準備し、研修している。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
				次のステップに向けて期待したい内容	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置しており、定期的使用方法を確認している。夜間の緊急時は、向かいの系列施設より応援が来る体制が出来ており、対応が周知徹底されている。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。地域の方にも協力いただき訓練にも参加している。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを大切にし、やさしく丁寧な言葉掛けを心掛けている。また、勉強会では毎月自己評価を行っており、改善する点などを話し合っている。		言動を否定したり拒否しないように職員で話し合っている。利用者の部屋には名札が付いており、利用者の理解を得ている。広報紙は写真が多いため身内のみの配付になっている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫したり、表情や反応を読み取り希望を把握するよう努めている。また、買い物や出前のメニュー選びなど自己決定できるような場面を作っている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて柔軟に対応している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性や希望を尊重し、地域の美容院にパーマをかけに出掛けている。また、馴染みの理容店、美容院の出張があり本人の希望を伝えている。その人らしさ、身だしなみ等に配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け、食器拭きなどの役割を持ち、職員と一緒にしている。テーブルは、利用者と同じ向き合っている。食事をする中で会話も弾み楽しんでいる。	検食1名、介助2名の計3名の職員が食事の際に利用者の側につき、多少の食べこぼしがあっても、利用者が自由に食事できるように介助している。食べにくさを解消するため、食事の前には舌の体操をしている。食事の準備や片付けは、利用者の状況に配慮しながら、職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェック表に記録し、残量チェックしながら一人ひとりの状況を把握している。栄養士のアドバイスを受けて、本人の嗜好を取り入れる工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄とうがいを行っている。就寝前は、義歯洗浄液に浸け清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導することでトイレの排泄を促している。入居時、オムツを使用していたが、排泄習慣が身につくにつれて、布パンツ、パットの使用となった事例がある。状態により、随時見直しを行っている。	介護日誌に記録してパターンを把握している。トイレのドアには大きく分かりやすい絵が表示されている。職員は利用者のしぐさ等から排泄の兆候を察知して、トイレ誘導している。放尿癖の利用者には、「検査に行こう」等、声かけに工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には乳製品を提供したり、腹部マッサージを行い自然排便を促している。必要に応じて医師に相談し、下剤調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーに配慮し、一人ずつの入浴を行っている。また、系列施設の温泉での入浴も行っており、利用者には大変好評である。	週2回入浴している。利用者のプライバシーに配慮して介助するように努め、利用者ができることはできるだけ利用者にしていただいている。時々、系列施設の温泉を利用することもできる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムをつかみ昼夜逆転しないよう努めている。眠れない時は会話をしたり、飲み物を提供し安眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴を把握し、薬の説明書を生活記録や業務日誌に挟んで、すぐ確認できるようにしている。また、服用忘れがないよう、チェック表を活用したり、その人の状態に合わせ、手渡しや口腔内に入れ服用確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合った役割を行い、張り合いが持てるよう支援している。一人ひとりの生活歴を尊重し、嗜好品(ビール)を居室にて楽しめるよう配慮したり、その利用者に合った支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が気分転換できるよう天気の良い日は外を散策したり、ドライブを行っている。また、小旅行などもあり、大型バスでの外出も行っている。	天気の良い日は施設の周りを散歩したり、近所のお店に買い物に出かけている。利用者の希望を把握しており、ドライブや小旅行も行っており、バスで花見等に出かける際には家族の方が同伴することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理している。また、通い帳を利用し、出張販売での購入を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際は、いつでも電話が掛けられるよう支援している。手紙は、本人の同意を得て開封したり、利用者の近況報告として、毎月家族に手紙を送付している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り入れるため、天窗を作り、明かりを取り入れている。食器を洗う音や調理中の匂いなど、五感や季節感が感じられるように工夫している。	廊下には岩木山、八甲田山等の写真が10数点掲示されており、季節ごとに入れ替わり、季節を感じることができる。食堂の窓は大きく、外の景色が良く開放的で、ブラインドにより光や温度調整ができる。食堂や廊下は天井が高く、落ち着いた雰囲気である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ゆったりとしたソファがあり、それぞれ思い思いに過ごせるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス、仏壇、写真、使い慣れた目覚まし時計、ラジオ、ベッドなどの持ち込みを促し、安心して過ごせるように配慮している。	使い慣れた物の持ち込みを促し、居室に位牌を持ち込んでいる人もいる。部屋の入口にある名札の素材は木材で温かみを感じられ、本人が居心地よく過ごせるような居室づくりがされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がわかりやすいよう、標識などに工夫し、混乱しないように配慮している。			